

---

# ロックマンZXOverdrive

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ロックマンZXOverdrive

### 【Nコード】

N9619G

### 【作者名】

### 【あらすじ】

ロックマンゼクスの物語から数日後、封印されていた1体のレプリロイドと1つのライブメタルが目覚めた・・・だがこの出来事はこれから起きる大きな戦いの序章に過ぎなかった・・・

## ミッションの別れと出会い(前書き)

この小説はロックマンゼクスを下書きに創られたファンフィクションです。

## ミッション0 別れと出会い

アタシの名前はエール

アタシと幼馴染の男の子ヴァンはアウターでバイクを引きずりながら歩いてた

なぜこんな状態かというと運び屋の仕事の途中でバイクが故障したからなのだが・・・

「何一人でブツブツ言ってるんだ？」

さっきまで黙ってたヴァンがアタシに話しかけてきた。

「気にしないで、それにしても町は遠いわね」

「ああ、トランスサーバーが見つければすぐなんだが・・・」

そんな会話をしていると、機械的な足音が地面に響きイレギュラー化したガレオンたちが現れた。

ガレオンの攻撃をバイクで防ぐアタシと

「うおおおおお」

と叫びガレオンにバイクを投げつけるヴァン、

ガレオンはバイクにより皆谷底に落ちていくが1体のガレオンがヴァンを道連れにした

アタシは何が起きたかわからずいたが

唐突に理解した、母さんと同じでもうヴァンに会うことができないことを

「ヴァアアアアン」

アタシは落ちた幼馴染の名を叫んだ、いつまでも・・・いつまでも・・・

体中が痛い・・・いったい何が起きたんだ？

「・・・見つけた・・・選ばれし者・・・ロックマン・・・」

少女の声が聞こえる・・・俺は閉じていた目を開いた、そこには奇妙なカッコをした男女がいた。

「君は・・・誰・・・？」

俺は少女に聞いた。

「・・・私はパンドラ・・・」

「俺はプロメテだ、お前の名前は何だ？」

2人が答えた。

「俺はヴァン・・・アレツ？」

俺はそのとき自分に起きた異変を知った。

「・・・どうした？」

プロメテが心配そうに聞いてきた

「・・・お・・・思い出せない！名前以外の記憶が・・・無い！」

「ちっ記憶喪失か・・・仕方ねえお前、俺たちの仲間にならねーか？記憶が無いなら

他に頼るモノもないんだろ」

プロメテの言う通りなので俺は彼らの仲間になることにした

「う・・・うん・・・ヨロシク」

「なら決まりだ」

そして谷底の3人の人影は消えた・・・

## ミッションの別れと出会い（後書き）

初投稿です。まだまだいたらないところのある ですが  
これからがんばっていくのでよろしくおねがいします。

## ミッション１ 反応と始まり（前書き）

この小説はロックマンゼクスを下書きに創られたファンフィクションです

## ミッション1 反応と始まり

朝・・・

「・・・またか・・・」

ヴァンは布団の中でつぶやいた。

ヴァンの布団の中にはいつの間にかパンドラが入っていたのである  
ヴァンがプロメテたちの仲間になって1年経っておりヴァンも二人  
と打ち解けているのだが

最近毎日のように、朝に

自分の布団の中にいつの間にかパンドラが入り込んでいるのが悩み  
なのだ

「ほら、パンドラ・・・起きて！君の布団はここじゃないでしょ！」

「・・・うー・・・ヴァン・・・」

「起きたら自分の部屋に戻ってそこで寝なさい」

「・・・きゅん・・・」

「いやまって！きゅんってなに？きゅんってなんだ!？」

「・・・お手・・・」

「・・・寝てる?」

(いったいどんな夢見てんだこいつ)

ヴァンとパンドラが漫才をしているとプロメテがヴァンの部屋に入  
ってきた

その表情は少しうれしそうだった。

「おいヴァン！パンドラ！夫婦漫才かましてるところじゃねーぞ」

「どうしたんだプロメテ？そんなに慌ててさ」

「感じるんだよ！ライブメタルのすごく強そうな気配が!!」

「・・・確かに・・・感じる・・・」

プロメテが押し寄せて来たことで、パンドラは完全に起きたようだ。

「あ・・・パンドラも起きたのか、じゃあとりあえずメシ食いなが  
ら詳しく教えてくれ」

「ああ」

「・・・わかった・・・」

そして、ヴァンたちは朝食を食べるとそのライブメタルのある場所に向かった。

同時刻 ガーディアンベース

「・・・これは・・・ライブメタル反応？それに何か強い反応を感じる」

ガーディアンの司令官プレリーはつぶやく

「いけない！エールを呼ばなくちゃ！」

そう言うとプレリーはエールに通信を始めた

そのころのエール

（今日はアイツのヴァンの命日か・・・あの時アタシに力があれば・・・）

すると突然通信が入ってくる

『エール聞こえる？』

「プレリー？聞こえるよどうしたの？」

『実は・・・』

プレリーはエールに事情を説明した

『・・・というわけだからエリアMの奥にある遺跡を調べて欲しいの』

「・・・わかったすぐに行くってくる」

そしてエールはエリアMの奥の遺跡エリアNに向かうためトランスサーバーに入ったのであった

そして新たな物語が始まる・・・

## ミッション1 反応と始まり（後書き）

第1話です。やっぱりうまく書けません。

プロメテとパンドラのキャラ崩壊がひどいです。

（ヴァンもかも）二人のファンには申しわけないです。

ちなみに はパンドラのファンです。

感想を待っています。

## ミッション2 別行動と救世主

エリアNに訪れたヴァン達は別行動をとることにした。  
理由はライブメタルの反応がガーディアンに知られている可能性があったため

プロメテとパンドラがガーディアンのロックマンの妨害をして  
ヴァンがライブメタルを手に入れることになったのである。

「・・・プロメテ・・・パンドラ・・・気をつけて・・・いやな予感がする」

「ああ」

「・・・わかった・・・ヴァンも・・・気をつけて・・・」

3人は会話を終えるとそれぞれの持ち場に向かった。

ヴァンルート

「うげっなにこのメカニロイドの数!」

ヴァンはつばやくとプロメテからもらったバスターショットを撃ち、  
メカニロイドを破壊していく

メカニロイドを全滅させるとその奥にはひとつの扉があった。

「・・・ここ・・・だよな・・・?」

ヴァンは決心が付いたのかその扉を開けた

プロパルルート

「・・・来た・・・モデルZXの・・・ロックマン」

パンドラが告げた瞬間、エールが現れた。

「プロメテ!パンドラ!」

「やはり来たかエール・・・さあ、楽しもうじゃないかぁー!」  
プロメテが戦闘体制にはいる

「・・・テキゴウシヤカクニン・・・R・O・C・K・システム キド  
ウカイシ」

エールの持つ2つのライブメタル・モデルXとモデルZが言つとエールは叫んだ

「ダブルロック・オン！」

エールは赤色のロックマン・モデルZXに変身した。

「行くぞエール！」

「・・・まっつて！」

エールに攻撃しようとしたプロメテをパンドラが制止した

「・・・どうした？パンドラ・・・」

「なにか・・・来る！」

パンドラの言つとおり強すぎる力が、遺跡の奥から近づいてきていた。

（コレが・・・プレリーの言っていた・・・反応？）

近くの壁が破られるとそこには赤いレプリロイドがいた・・・

そして、そのレプリロイドは3人を見ると立ち止まった

「・・・あなたは・・・誰？」

パンドラが問うとそのレプリロイド・オメガは口を開いた

「我は・・・我はメシアなり・・・ハーハーハッハッハッ」

「このセリフ・・・貴様は破壊神・・・オメガだな！」

オメガの発言にプロメテが反応する。

「・・・」

オメガはプロメテを軽く無視するとアルティメットセイバーをかまえる

「無視すんなつ（怒）」

プロメテは自分の体以上の大きさの鎌をかまえて

パンドラ・エールもそれぞれ杖とZXセイバーをかまえた。

## ミッション2 別行動と救世主（後書き）

かなり遅れた更新になりました。

いよいよ次回はオメガが大暴れします。

楽しみにしてください。うれしいです。

### ミッション3 ロックマンと救世主

ヴァンルート

「この石が・・・ライブメタル?」

ヴァンは宙に浮かぶ不思議な石を見て言った。

「・・・・・・・・・・我はライブメタルモデルO」

「お前が俺たちの探していたライブメタル・・・」

「おそらくはそう言うことだろう・・・」

「助けてくれ!!すごくいやな予感がするんだ!俺の仲間が危ない・  
・そんな気がするんだ」

「お前が・・・我を必要とするのなら力を貸してやろう・・・」

「ありがとう・・・」

お礼を告げるとヴァンはいやな予感のする方向・・・すなわち上を見  
た。

「・・・・・・・・だが・・・」

「!?!」

「我が力お前に扱いきれるかはわからんぞ!!」

「・・・わかった・・・だけどきつと扱いきつてやる!!」

「そうか・・・なら我を使え!!!!」

「おう!!!!」

ヴァンはモデルOを持ちそして

プロパンルート

「コイツウ!!!!」

エールがオメガにチャージセイバーを振りかざす

だがオメガはソレを紙一重で回避する

「こつちだ!!!!」

プロメテがエールの影からオメガに切りかかる

オメガは大きくジャンプすると後ろからプロメテに3段切りをする

「つぐあああああ」

「・・・潰してあげる・・・」

パンドラが杖から氷の像を生み出しオメガに向け突進させる。

オメガはバスターショットを連射して氷の像を破壊する

「当たれっ」

エールのフルチャージZメバスターは見事にオメガの背中にヒットした。

だがオメガは何事も無かったかのように立っている

そしてその姿が一瞬にして消える

「えっ？」

「エール！！後ろだ！！」

プロメテが叫びエールはセイバーを後ろに切りつける途中で刃が止まり

見るとそこにオメガがいた、セイバーはオメガの持つセイバーと切りあう形になっていた

「いまだっ」

「クロス・ファイナレ」

プロメテとパンドラが合体技を放つ

「消え去れ！！」

突如オメガの周りが光り、光がはれた後にはプロメテとパンドラが倒れていた

そしてエールはオメガの3段切りを受け倒れた。

（体が動かない・・・アタシ・・・もう死んじゃうのかな・・・ゴメンジル  
ウエ・・・ゴメンプレリー・・・ゴメン・・・ヴァ・・・）

そしてエールの意識は無くなった。

戦場と化した遺跡には3人のロックマンが倒れていて1体の破壊神が立っていた

### ミッション3 ロックマンと救世主(後書き)

メシアさん大暴れ。

バトルシーン下手だったらごめんなさい。

ちなみに はオメガをエンディング前に倒せました。

ノーマルなんですけどね

感想待ってます。

## ミッション4 救世主と救世主

「テキゴウシヤカクニン・・・R・O・C・K・システム キドウ  
カイシ・・・」

「ロック・オン!!」

プロメテが声のする方向・・・オメガの後ろを見ると  
その床にひびが入っていき・・・床に穴が開いた。

その穴からひとつの影が飛び出しオメガに切りかかる

「ぐおっ」

完全に不意をつかれのけぞるオメガ、容赦無く切りつける赤い影  
ふいにその赤い影は立ち止まる

その赤い影はオメガと同じ姿をしていたロックマンだった

ひとつだけ違うものは瞳

オメガの瞳は狂気に輝く紅い瞳、だが先ほどオメガを切りつけたロ  
ックマンの瞳は

強い意志を持ち翠色に輝いていた。

プロメテはその瞳の持ち主を知っていた

「・・・ヴァ・・・」

プロメテはそのロックマンの名を呼んだ

「プロメテ！パンドラ！！大丈夫か!？」

「・・・大丈夫に見えるか？」

「見えない!!」

「・・・」

(良かったいつものヴァンだ)

少しだけ安心したプロメテだった

「貴様・・・何者だ？」

先ほどまで連続攻撃にやられてたオメガがヴァンに問う

「俺はヴァン!!!ライプメタル・モデルOの適合者だ!!!」

「・・・モデルOの適合者・・・」

「そうだ！！プロメテとパンドラをよくもやったな！！！」  
言うとなメガはオメガに切りかかる

「・・・まがい物ふぜいが我に勝てると思うな」

「！！なにっ！！」

オメガは攻撃をよけ切りかかる

「ぐあああああ」

オメガの攻撃を受け、倒れるヴァン。

「・・・この程度か・・・」

「・・・いや・・・まだだ・・・」

オメガが止めを刺しに歩き出すとモデルOが喋った

「ヴァンお前本当に痛いのか？」

「・・・えっ？」

「痛くないだろ」

「・・・そういえば・・・痛くない・・・」

「そうだ・・・あいつの攻撃はお前に通用しない、攻撃を恐れるな」

「・・・わかった！！」

会話が終わるとヴァンは立ち上がり、

再びセイバーを構えた

「何を話していたかは知らないが、まだやられたりないようだな」

「俺は・・・お前を・・・倒す！！」

会話と同時に二人は切りあい始める

すると突如モデルOが喋った

「オーバードライブ・インヴオーグ・システム、キドウカイシ」

その言葉が終わった瞬間ヴァンの体が紅く輝いた

そしてヴァンは一度オメガから離れ、バスターショットをオメガに

撃った

巨大な光の塊の群れがオメガを襲う

「ぐおおおおおお」

「いまだ！！」

ヴァンはセイバーでオメガに切りかかる

「うがあああああああ」

ヴァンはオメガの断末魔の悲鳴を聞きながらロック・オンをといたオメガのいた場所からいきなり光の玉が現れた、  
そして、その光の玉はモデル〇に近づきモデル〇とひとつになった。

「モデル〇……ありがとう……みんなを助けることができた」

「気にするな……我も力を取り戻せし……適合者にも会えた」

「……？それって俺のこと？」

「そうだ……これからもよろしくな……」

「ああ」

ヴァンとモデル〇の会話が終わったのを見計らってプロメテとパン  
ドラが声をかけてきた。

「ヴァンそろそろ帰ろうぜ」

「ああ」

「……帰りましょう……」

そして3人の影は遺跡から消えた

ちなみにエールが目覚めたのはその一時間後だった。

ミッション4 救世主と救世主（後書き）

遅くなってすいません

オメガ編がコレで終わりです。

感想や要望があつたら教えてください  
できれば実行したいと思います

（小説以外でもいいです）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9619g/>

---

ロックマンZXOverdrive

2010年11月18日14時35分発行